

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。
身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場企画室 TEL42-1613



「あいの沢」の紅葉を満喫しながら

いいたて俳句ウォーク

10/1

村民の森「あいの沢」にて「いいたて俳句ウォーク」が開催され、参加者らが紅葉に染まる園内を散策しながら、俳句を通して交流しました。

この事業は、愛の俳句事業の一環として、「あいの句碑」が整備された自然豊かな「あいの沢」の利活用と俳句を通じた交流を推進するため、村が初めて実施したものです。この日は、村内外の俳句愛好者など約100人をはじめ、愛の俳



▲村内外から約100人が参加した俳句ウォーク

句選者で俳人の黛まどかさんと、黛さんと親交のあるイラストレーター・わたせせいぞうさんも出席しました。

はじめにセレモニーが行なわれ、わたせさんが村に贈った俳句の句碑を、わたせさんと黛さん、菅野村長の3人が除幕しました。引き続き吟行会が行われ、参加者らが「あいの沢」を自由に散策しながら、俳句を詠んで投句しました。

最後に行なわれた交流会では、黛さんが選句した吟行会の入選作品20句を発表し、入選者へ記念品などを贈りました。参加した人たちは「美しい自然の中で俳句を詠むのは楽しかった」「俳句の間が増えたので、また楽しみが増えた」などと感想を話していました。



▲園内に建った「あいの句碑」周遊案内版



▲わたせさんの句碑の前で（左が黛さん、右がわたせさん）

香水の
記憶に緋(ほそ)き
君の腕
わたせせいぞう

村が平成13年度から取り組んできた愛の俳句事業。5年間で建った句碑は、入選者250と、黛まどかさん、坂東三津五郎さん、増田明美さん、わたせせいぞうさんの句碑を合わせ254となりました。村では今後、「あいの句碑」や村の美しい自然を盛り込んだ写真集の発行を予定しています。

10/12 **気軽に楽しく
元気アップ**

いきいきクラブ指導者養成講習会



▲講習会のようす

村公民館にて「いきいき元気アップ指導者養成講習会」が開かれ、村内各地区の老人クラブ会員やミニデイ会員など約60人が参加し、健康で元気に過ごすための秘訣などを学びました。

この日の講師は、元うつくしま広域スポーツセンター事務局長の佐久間貞良さん。講習会では、佐久間さんから元気に過ごすために普段の生活で心がけることなどが講話されました。

その後、全員でボールを使った軽運動を行いました。参加した人たちは「気軽に運動ができて楽しかった」「この話や運動を地区のみんなに広めた」といなど感想を話していました。



▲講師の佐久間さん



▲軽運動を楽しむ参加者ら

山頂からの大パノラマに感動

10/22 **いきいきクラブ「安達太良山登山」**

いきいきクラブの「安達太良山登山」が行われ、村民16人が参加し、1700以上の山頂を目指しました。同クラブの登山は今年2回目、今回も村登山愛好会（大内雄治会長）の協力を得て実施しました。参加者たちは安達太良山の紅葉を楽しみながら、約1時間30分かけて山頂に到達。足元には大パノラマが広がり、参加者たちは「疲れを忘れるくらい素晴らしい景色」と、山頂からの雄大な眺めに感動していたようでした。



▲山頂での記念写真

10/15 **ナイスショット続出！
村民ゴルフ大会**

村民ゴルフ実行委員会（渡辺守男委員長）主催の「第20回村民ゴルフ大会」が、南相馬市鹿島区の鹿島カントリークラブで開催され、ゴルフ愛好者ら36人が参加して熱戦を繰り広げました。今年の大会も、個人の部と団体の部が設けられ、参加者らは秋晴れの空の下、ゴルフを楽しみながら交流を深めていました。

大会結果
個人の部（敬称略）
 優勝佐藤栄一（二枚橋・須萱）、準優勝宇佐美巳喜夫（草野）、1位高橋義治（飯樋町）、2位渡辺守男（小宮）
団体の部 優勝飯樋町、準優勝草野



▲熱戦を繰り広げた参加者ら

みんなの心を一つに



▲白石小3・4年生による音楽劇

村教育研究会（会長・星国央草野小校長）が主催する「村内小中学校音楽祭」が飯館中学校体育館にて行われ、児童や生徒たちが合唱や合奏を発表しました。

各学校とも、この日のために練習してきた曲目を、表現力豊かに発表していました。会場には多くの保護者らが訪れ、合唱や演奏が終わるたびに大きな拍手を送っていました。

会（兼・第60回福島県下小中学校音楽祭第一部合唱）で銀賞に輝くなど、数々の素晴らしい成績を残してきました。

また、飯館中吹奏楽部は、「第60回福島県下小中学校音楽祭相馬地区大会」で最優秀賞を、同県大会で銅賞を受賞しています。

今回の音楽祭に参加したのは、草野小と飯樋小の4年生、白石小の3・4年生、飯館中3年生の選択音楽、さらに草野小金管クラブと飯樋小合唱部、そして飯館中吹奏楽部の7つ。このうち、飯樋小学校合唱部は、今年の「TBC」こども音楽コンクール福島地区大会で優秀賞、「第73回NHK全国学校音楽コンクール相馬地区大会」で最優秀賞、同福島県大

10/12 **村内小中学校音楽祭**



▲草野小4年生による演奏



までいブランド

飯館村が長いこと指導いただいた系長先生は、日本大学の教授です。その日大が、9年前から「全国農村サミット」をいうものを開催してきました。各県1人程の首長が集まって、農村の活性化を探りながら、情報交換する内容です。系長先生の推薦があつて、私もこれまで数回出席し、多くのことを学んできました。飯館村が「自立して頑張ってみよう」と思ったことも、このサミットに講師として出席された、ある県知事の話に感銘したというのの一つのきっかけでした。

さて、今年はいつもの本部（東京での首長中心のサミットから、会場を神奈川県生物資源学部・湘南キャンパス（系長先生のところで、学生約700人）に移し、学生を交えてのサミットに変わりました。私は、そこで飯館村の「までいライフ」を熱く話させてもらいま

した。たかが方言ではなく、古語に「真手」とある素晴らしい言葉、つまり真手とは両手ということから、「大切に、念入りに、心を込めて、手間ひま惜しまず、つつましく」になるという話を交えながら…。夕方からの懇談会の席になると、女子学生も含めて多くの学生が「までのい話をもっと聞かせてください」「までいって素晴らしいですね」「ポスターの意味が分かりました（までのいポスターが大学に貼ってある）」と、私のところに近づいてくるではありませんか。

近頃の若いものは…との話もありますが、その若者たちを引きつけてやまない理念、主張、考え方が、わが村の進んでいる「までいライフ」なんです。

私たち村民も、この言葉の内容の広さ、深さ、素晴らしさを、もう少し掘り下げていって、農産物販売や教育、食育、健康づくり、そして生活の仕方にまで、までのい精神を活用して村を進展させ、村民の生活向上に役立てていく必要があります。

間もなく、「までい」の記号や言葉が商標登録されて、村のオンリーワンのブランドになってきますので、期待しててください。平成18年10月30日

飯館村長 菅野 典雄



誕生おめでとう

赤ちゃんの名まえ	親の氏名	行政区
石井望海ちゃん	眞治・己香	草野
菅野璃紗ちゃん	幸男・佳那	草野
花井友愛ちゃん	智弘・あゆみ	宮内
荒悠斗くん	淳・ちどり	飯桶町

すくすくと元気に育ってね

結婚おめでとう

氏名	行政区
井上吉徳	関沢
菅野真矢	伊達郡川俣町

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
佐藤キク子	77	小宮
齋藤むつ代	88	大久保・外内
須藤チノ	87	比曾
武藤ハナ	82	二枚橋・須萱
林房義	96	白石
佐々木育郎	82	佐須
大久保ミノリ	76	伊丹(大久保・外内)

ご冥福をお祈り申し上げます

(9月21日から10月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

(平成18年10月1日現在)

人口	今月 (前月比)	昨年同期
男	3266人 (-6人)	3349人
女	3300人 (-3人)	3372人
計	6566人 (-9人)	6721人
世帯数	1744戸 (-3戸)	1740戸

◆◆◆ 9月1日～30日までの人口動態 ◆◆◆			
転入	8人	転出	17人
出生	7人	死亡	7人

(平成17年国勢調査に基づき増減された現住人口)

10/14・15

都市住民が 村の暮らしを 体験



▲牛の世話を体験する参加者たち

飯館村・浪江町・葛尾村・川内村・田村市都路町の5市町村と県で組織する「あぶくまロマンチック街道構想推進協議会」主催の「あぶくま暮らし体験事業」が行われ、都市部に住む30人が参加し、それぞれの市町村に分かれて農村での暮らしを体験しました。この事業は、あぶくま地域における交流人口の拡大

を図ることを目的に、同協議会が昨年からは実施しています。今年も、市町村ごとに特色ある体験プログラムを用意して参加者を募りました。参加者の内訳は、飯館村12人、浪江町5人、葛尾村4人、川内村7人、都路町2人。このうち飯館村では、参加者が村内の3軒の農家に分かれ、それぞれ指導を受

けたが、野菜の摘み取りや花卉の出荷作業、牛の世話などを手伝いました。夜には、「きり」で交流会が開かれ、イターンで村に移住した人たちの話を聞いたり、受け入れた農家の方々と交流しました。翌日は、村内の農家レストランなどを見学した後、浪江町へ移動し、全体交流会に参加しました。同協議会では、元氣なあぶくま地域づくりのため、今後も様々な活動や交流事業を進めていきます。なお、来年1月には、同



▲選花作業を手伝う参加者たち

「あぶくまロマンチック街道 構想推進協議会」主催 「あぶくま暮らし体験事業」

を目的に、同協議会が昨年からは実施しています。今年も、市町村ごとに特色ある体験プログラムを用意して参加者を募りました。参加者の内訳は、飯館村12人、浪江町5人、葛尾村4人、川内村7人、都路町2人。

このうち飯館村では、参加者が村内の3軒の農家に分かれ、それぞれ指導を受

けたが、野菜の摘み取りや花卉の出荷作業、牛の世話などを手伝いました。夜には、「きり」で交流会が開かれ、イターンで村に移住した人たちの話を聞いたり、受け入れた農家の方々と交流しました。翌日は、村内の農家レストランなどを見学した後、浪江町へ移動し、全体交流会に参加しました。同協議会では、元氣なあぶくま地域づくりのため、今後も様々な活動や交流事業を進めていきます。なお、来年1月には、同

各会場とも大いに賑わう

10/28・29

秋晴れの下 盛大に

第24回いいたて秋まつり



恒例の「いいたて秋まつり」が、村公民館やJAそま飯館総合支店、Aコープなどを会場に盛大に開催されました。いいたて村づくり推進協議会(会長・菅野村長)が主催し、多くの団体の協力によって毎年開催されているこの秋まつりは、今年で24回目。2日間とも秋の青空が広がり、各会場には多くの人が訪れました。28日、JAそま飯館集出荷場前で行われた「収穫感謝祭」では、生産者ら19人が米や野菜などを、それぞれ神前へ献饗。今年の収穫に感謝するとともに、来年の豊作を祈願しました。翌日には公民館駐車場で「商工まつり」が行われ、会員らによる模擬店が並んだほか、子どもたちを対象



▲ハロウィンかぼちゃを作る親子ら

にした鮭つかみ大会も実施され、会場には多くの家族連れが訪れました。また、公民館内で2日間にわたり開催された総合文化展では、子どもたちや各団体の会員らによる作品が多数展示され、訪れた人たちは各作品の前で足を止め、見事な出来栄に感心しながら見入っていました。このほか、愚心会の「あぶくま高原そばフェスタ」や、NPO法人いいたて教育文化福祉の茂里支援センター主催の「子どもフェスタ」、イータベイクジャがいもフェスタ、JAまつりなど、2日間にわたり各団体による多彩な催しが行われ、各会場とも大いに賑わっていました。



▲親子クッキーづくりのようす



▲力作が多数並んだ総合文化展



▲収穫感謝祭で奉納された佐須虎捕太鼓